

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し、次代を担う生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	基礎学力の定着と個別最適な学びの充実	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※授業がよくわかる/家庭学習の項目「1,3,4」	90%	84.1% 77.1% 62.7%	80.5% 76.1% 63.2%	89.4% 84.6% 70.2%	B	・授業がよくわかる/家庭学習の2項目とも昨年度と比較して下回っている。 ・特に宿題や課題などの提出物については、昨年度の86.9%に対し今回は76.1%であり、大幅に下回っている。	・管理職からの指導や1人1授業研究での取り組みをもとに、日々の授業改善を行なっている。 ・家庭学習の充実に向けて、研究部を中心に具体的な取り組み内容について協議し、方向性を考えていく。	○			・全体的に全校をあげての取り組みがうかがえる。 ・まずは提出物を決まった期日に出せるよう学校だけでなく保護者からも声掛けが必要かと思われる。
		ICT機器を積極的に活用した学習活動	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※ICT機器の項目「11」	90%	85.4% 81.8%	90.9%	B	・ICT機器の項目は今回81.8%であり、昨年度から約13ポイント下回っている。	・やや単元によって頻度がことなるものの「授業の中でICT機器を積極的に活用し、生徒の基礎学力の定着に向けて、自学自習のためのツールとして家庭学習で効果的に活用する。」	○			・ICT機器の活用については、達成値が昨年度より下がっていたが、活用が多ければよいというものではなく、効果的な活用が必要と思われる。十分な数値を残していると思われる。	
		学習分析を基にした授業改善と探究的な学習(PBL)の充実	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「6,7」	70%	84.4% 74.2%	78.9% 63.4%	112.7% 90.6%	A	・ピア活動やグループ学習では自分の考えを伝えたり、人の意見を聞いて学習を深めています。」という生徒の割合は目標値を超えたが、「授業で、自分の意見や考えをまとめて、周りの人にわかりやすく説明したり発表したりしています。」の項目については目標値に届かなかった。	・今後研究部を中心に、学力向上や主体性の向上に向けて取り組みを進め、授業改善と探究的な学習の充実について研修を重ねていく。	○			
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	生徒指導・教育相談活動の推進	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※自らあいさつ「5」 不登校の人数	80% 20人以下	72.3% 16名	65.7% 23名	82.1%	B	・あいさつについての肯定的な評価は65.7%であり、昨年度より約9ポイント下回っている。 ・不登校生徒数は昨年度より2名増加している。	・生徒会活動として取り組んでいる。部活動ごとのあいさつ運動を今後も生徒会と連携しながら進めていく。部活動全入ではなくなったため、他の取り組みについて検討を進めていく。 ・不登校に関して、各担任・SSW及びSC等と教育相談委員会等で連携をとりながら組織的な対応を継続して行なっていく。	○			・生徒への肯定的な指導が効果をあげている。生徒の主体性がうかがえる。 ・コロナ禍が明け、課題が出てきている現状があるが、教職員が生徒の個々のレベルに応じて対応している。
		道徳教育の充実	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「12,13」	90%	76.6% 83.8%	70.6% 79.1%	78.4% 87.8%	B	・道徳の授業が好きだと感じる生徒は70.6%である。 ・道徳の授業の必要性や生きていく上で大切なことを学んでいるという意識は79.1%の生徒が感じている。	・授業改善に関わる校内全体での研修の充実を図る。 ・経験年数の少ない教員の参考となるよう、授業参観の機会を持ち、授業イメージを確立させる。	○			・コロナ禍の経験を負と捉えず、工夫しながら実践してきたことを誇りに思えるようにしてほしい。 ・悩み事があった際、保護者・職員等に相談しようと思えるよう信頼関係を築き相談できる環境づくりが必要である。
		生徒会活動の充実	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「7,8」	90%	88.1% 87.1%	86.8% 85.2%	96.4% 94.7%	B	・「委員会、係の仕事等に責任を持って取り組み達成感を感じている」は1.3%、「学校行事などではみんなと協力し、一生懸命取り組み達成感を味わうことができる」は1.9%程10月より減少している。	・生徒会役員・委員長と担当教員が連携を密に取ることでより充実した活動を目指す。また来年度に向けて活動内容の見直しを進め、生徒が活躍する場を増やしていく。また、自信をもって活動し一体感や達成感が得られるよう環境を整えていく。	○			・学校評価表にあらわれのない取り組みの成果を授業中の生徒の様子から感じる。
働き方改革の推進	生徒と向き合う時間の確保	効率的な業務改善の推進	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※教職員の業務改善の項目「8」	90%	70.6% 82.3%	91.4%	B	・「少しでも早く退校できるように業務改善に努めている」というアンケートに肯定的に答えた教職員の割合は70.6%であった。 ・水曜日を部活動休養日・定時退行日、5校時の日として取り組み、業務の都合により実行できない日もあるが、全職員が意識して業務にあたることができている。	・準衛生委員会が全職員に対し、業務改善に関するアンケートを実施し、各委員会に対応を割り振りし、実現可能なことから改善している。 ・定時退校日に早く退校できるよう、日頃から意識して業務の計画を立てるようにする。	○			・見通すイメージづくりをすることで効率的に運営がされている。 ・アンケート結果をもとに、	
		長時間勤務の縮減	学校組織のスリム化と業務スケジュール管理の徹底	在籍時間50時間以内の者の割合 前年度比増	54.0% 60.7%	88.3%	B	・勤務時間外の在籍時間が50時間以内である者の割合は、10月間でのべ257名101名、60.7%であった。昨年度末は60時間以内の者の割合が68.7%であり、単純比較はできないものの、割合としては低い。 ・中核となる立場の職員が多くが転勤で入れ替わり、4月は混乱の中での業務のため、50時間以上が17名の超過勤務であったが、1月では3名に減ってきており、徐々に成果が表れてきている。	・現在、職員から業務改善に関するアンケートを取り終え、アンケートの結果をもとに各委員会で分担し、取り組んでいる。 ・学校行事等、今年度取り組んだことについては、行事終了後すぐに要項等の修正を行い、次年度のフォルダに保存しておくことで、先を見通した業務改善としていく。	○			・短期で取り組めることを実践しており、また長期的な見直しも持って取り組んでおり、徐々にその成果が表れてきている。	

【:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分らない。